

6 芸術（音楽）

学校番号

208

令和3年度 芸術科〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	MOUSA 2 （教育芸術者出版）						
副教材等	MUSIC NOTE （啓隆社）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

- ・「歌うこと」「楽器を演奏すること」「音楽をつくること」「音楽を聴くこと」の4つの分野を年間通して学習します。
- ・学習の到達度は、授業で配付するワークシートや実技テストで評価します。
- ・音楽の学習は、クラスメートとともに実際にやってみて、試してみても価値あるものとなり、そうして感性が豊かになります。
- ・音楽が、生涯ずっと、みなさんの心の支えとなり、生きていく力となることを願っています。

2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 音楽への関心・意欲・態度	b: 音楽表現の創意工夫	c: 音楽表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評 価 方 法	観察 ワークシート	観察 ワークシート	演奏の聴取 提出作品	観察 ワークシート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学 期	単 元 名	学 習 内 容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学 期	詩の内容を大切にして歌おう	【歌唱】 【楽典】 「ハナミズキ」 「糸」 「春に」	○	○	○		a: 自分なりのイメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、曲想と歌詞が表す情景や心情との関わりをどのように歌うか、表現意図をもっている。 c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	リズムアンサンブルを楽しもう	【器楽】 「クラッピング カルテット第1番」	○		○		a: アンサンブルに関心を持ち、その持ち味を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 c: リズム譜を読譜し、表現したいことを伝えるための技能を身に付けている。a: 箏の音色や旋律、リズムの特徴と表現上の効果との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	音の輝きや表情を感じ取って演奏しよう	【器楽】 スタジオ・ブ リ・メドレー	○	○	○		a: リコーダーの基礎的な奏法の特徴に関心を持ち、いろいろな奏法を身に付けて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 自分なりのイメージを持ち、リズム、旋律、強弱など、音楽を形づくっている要素の変化と、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 c: アルトリコーダーの音色や奏法の特徴を生かした技能を身に付け、創造的に表している。	観察 ワークシート 演奏の聴取
2 学 期	外国語の美しい語感を生かして表現しよう	【歌唱】 「オンブラ・マイフ」	○	○	○		a: イタリア語の響きや、曲想、歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりに関心を持ち、イメージを持って歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 c: 曲想を歌詞や楽曲の背景と関わらせて、イメージをもって音楽表現するために、必要な発声、イタリア語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取

	ギター弾き語りに挑戦	【器楽】 「大きな古時計」 「思い出がいっぱい」	○	○	○		a: :ギターの基礎的な奏法の特徴に関心を持ち、弾き語りで演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 旋律と和音の特徴を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、を生かして表現を工夫している。 c: 弾き語りをするために必要なギターの基礎的な技能を身に付け、創造的に表している。	観察 ワークシート 演奏の聴取
3学期	日本の音階で旋律を作ろう	【創作】 「日本民謡」 「都節音階」 「律音階」 「沖縄音階」 から音階を選択し、旋律を創作	○	○	○		a: 我が国や郷土の音階の特徴に関心を持ち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 我が国や郷土の音階の特徴を知覚し、その醸し出す雰囲気を感じながら、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 c: イメージに沿った旋律やリズムの組み合わせ方、記譜の仕方など必要な創作技能を身に付け、創造的に表している。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	民族音楽に親しもう	【鑑賞】 「アラリン」 「ブヌ族の合唱」	○			○	a: 諸外国の音楽に触れ、それぞれの国の文化や音に関心を持っている。 d: 諸外国の音楽を通して、自分なりの観点をもってその音楽の美しさを聴こうとしている。	観察 ワークシート

※ 表中の観点について a: 音楽への関心・意欲・態度 b: 音楽表現の創意工夫
c: 音楽表現の技能 d: 鑑賞の能力

※ 原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の3観点で、「鑑賞」の分野は a, d の2観点で評価をする。

※ 年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。